

クローズアップ!

こうしほうゆうず

《高士訪友図》

明治41年頃(33歳頃)本館蔵

ロバにのった高士が、深山の楼閣(ろうかく)に住む 友人を訪ねる場面を、墨のみでかいた作品です。

そのし

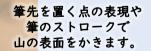
いろいろな表現を探そう!

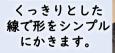
春草さんがどのように筆を運んだのか、 作品に表れた<u>筆のあと</u>からみることが出来ます。 線でかくのか、色であらわすのか、筆をどう使うか。 幅広い水墨表現の工夫をさがしてみて下さい。

淡い墨をぼかして 遠くの山をかきます。











側筆(ねかせた筆)を使って ゴツゴツした岩をかきます。

その2

墨の色をたのしもう!

<u>墨の色彩</u>のみでかいています。 ただのモノクロではなく、濃い墨、淡い墨、 墨の持つ色は、実はとても多彩です。

落ち着いた墨色の表現と、その味わいを たのしんでみてください。

季節や時間、きこえてくる音などを想像して、 色を考えてみるのも良いかもしれません。

その3

景色をかく 工夫をみよう!

山の斜面を交互にかくことで、 画面を近景・中景・遠景の3つ に分ける構図になっています。

近景を低くして、高士を小さく かくことで、この景色がとても 大きいことを伝えています。

また、山の向こうに少しみえる 屋根によって、高士が進む 遥かな道のりが伝わります。



さらに、何もかかない余白で霧(きり)を表現し、神秘的で深い空間の広がりをあらわしています。



友人の住む場所を目指して 雄大な自然の中をロバに乗って進む高士。 どんなことを考えているでしょう?

。 はててもるうろうか、コめろもすコや大。 桝室のなみをお品計るもコ室示易 アロガスおお子木・ア高なさ小却きと下語・ハなられてお望か品却・65世代20日 >~> かの 下室 示 勇

> 1674764340>63 る界型のログ(チオバルを)墨

02501474 、公浸さい書き索とそじそし まる「種種」とは





膜&S 電 示 到 號 常 草 春 田 菱 1会賞鑑そ縣 効学術美よンモ 42202



今日みた中で気になった作品の おすすめ部分をかいてみよう!

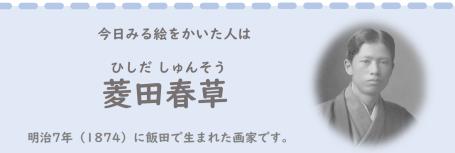
絵でも、文字でもOK!

春草さんのどんな 表現の工夫をみつけた?



今日みる絵をかいた人は

ひしだ しゅんそう 菱田春草



明治7年(1874)に飯田で生まれた画家です。

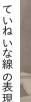
日本に昔から伝わる絵のかき方を大切にする「日本画」をかきました。

日本画を新しく、もっとすてきにするためにはどうしたらいいのか、 いつも新しい表現に挑戦していた、とても大切な日本画家です。

みなさんが今日の子ども美術学校「墨から生まれる世界」でかいた水墨画。

水墨画には、細さ、太さ、強弱などによる線の表現や、墨の濃淡、 ぼかし、にじみ、あえて何も描かずに余白を活かした表現など、 色を使った作品とはまた違った、魅力的な表現がいっぱいあります。

春草さんも、たくさんの墨の絵をかきました。 どんな表現で水墨画をかいたのでしょう?展示室にみに行きましょう!





何を考えているところだろう?



力強い線でかいた立派な木!



船の人たちが見た景色は?

目線の先には何がある?





この日の天気はどんな感じ?

